

# 中部人懇通信 No.3

PTA  
対象

平成27年9月26日(土)に、倉吉未来中心でPTAを対象とした中部地区人権教育懇談会を開催しました。その内容を紹介します。

## 「地域と共に創るとっとり人権教育事業～人権教育プログラムの取組について～」

鳥取県教育委員会事務局人権教育課 社会教育係長 盛田恭司 氏

学校・家庭・地域が連携して、いじめの防止のための効果的な研究実践を行い、その成果を人権教育プログラムとして県内に普及させたいと考えている。保護者からのメッセージを児童生徒の学びに生かしたり、また、同じように児童生徒の考えを保護者で受け止めたりするなど、お互いの学びがスパイラルに進んでいくような研修プログラムを、今後3年間で市町の人権教育推進員や人権教育アドバイザー等で作成し、保護者や地域住民の人権研修で活用していきたい。



### 「人権教育プログラム体験」90分

ファシリテータ 人権教育プログラム作成委員

- 1 アイスブレイク 簡単な自己紹介ゲーム
- 2 展開① 資料「どうしようか」を読んで話し合う
  - ・「この後A母はどうしたらよかったですか」
  - ・「あなたが、自分の子どもから同じように聞いたらどうだと思いますか」
  - ・「自分がやろうと思った行動はいじめの解決に繋がるでしょうか」
- 3 展開② 子どもたちへのメッセージを考える
  - ・いじめを生まない、助長させないために保護者として何が出来るか考え、子どもたちへのメッセージとして模造紙にまとめる。
- 4 まとめ (ファシリテータ)
  - ・保護者と教職員が良好な人間関係を構築していくには具体的な取組が必要である。
  - ・いじめは個人の問題ではなく集団や社会の問題。個人の問題として解決するだけでなく、集団の問題としても解決しなければいけない。

### 資料「どうしようか」※要約

A母は、A娘より同じクラスのB君がいじめられていることを聞かされる。その後、A母は友達F母にいじめのことをメールで伝える。F母はBやB家族のことをあまり知らないといって他人事。このままじゃあB君がかわいそう。どうしようか。



## 【参加者の感想より】

### ◆研修方法について

- ・他校の保護者と意見交換でき、みんなとメッセージを作り上げていく過程がとても参考になった。自校でもやってみたい。
- ・参加型の研修会はたくさんの意見が聞け、その分だけ気づきが生まれるのでとてもよいやり方だと思う。

### ◆研修内容について

- ・各校のPTA研修で取り組むには、もう少し発問を精選し、わかりやすくした方がよいと思う。
- ・保護者としていじめにどう向き合うかしっかり話が出来た。「子どもたちへのメッセージ」は、保護者の考えをまとめるよい手段である。
- ・いじめの立場は流動的なこともありうるので、加害者、被害者の両方に寄り添うことを忘れてはいけないと思った。

## 【まとめ】

参加型の本プログラムでは、教員と保護者が思いを共有し、わが子やクラスの子どもたちにメッセージを送ることで、子どもたちの学びが深まることを期待しています。今年度作成した資料につきましては、後日、ホームページにアップする予定です。



♡ かけがえのないあなたたち♡  
～ わたしたち保護者は いじめを許しません!～  
そのために、私たち保護者は

- ★ 家では
  - ・親子でたくさん話をします。
  - ・一緒に過ごす時間を大切にします。

- ★ 保護者みんなで
  - ・情報交換は かけません。
  - ・保護者同士グループで固まりすぎず、みんなでコミュニケーションをとります。

子どもたちへのメッセージ